

株式会社NEXYZ.Group

インパクト評価書

2024年2月28日

インパクト分析フロー

- 下記のフローで当社のインパクト（環境・社会・経済に与える影響）を分析いたしました。

工程	内容
① バリューチェーン分析	事業を各工程で区切り、価値創造プロセスを整理することで、インパクト分析の下地を作ります。
② インパクトマッピング	国際標準産業分類（ISIC）を用いて、業種別の一般的なインパクトを22項目で確認します。
③ インパクトの特定	①、②、そしてヒアリング結果等からインパクトを特定し、SDGsとの関連性や社会的なニーズ等との整合を確認します。
④ 目標・KPI設定	特定したポジティブインパクトが増大、あるいはネガティブインパクトが抑制されるような目標とKPIを設定します。



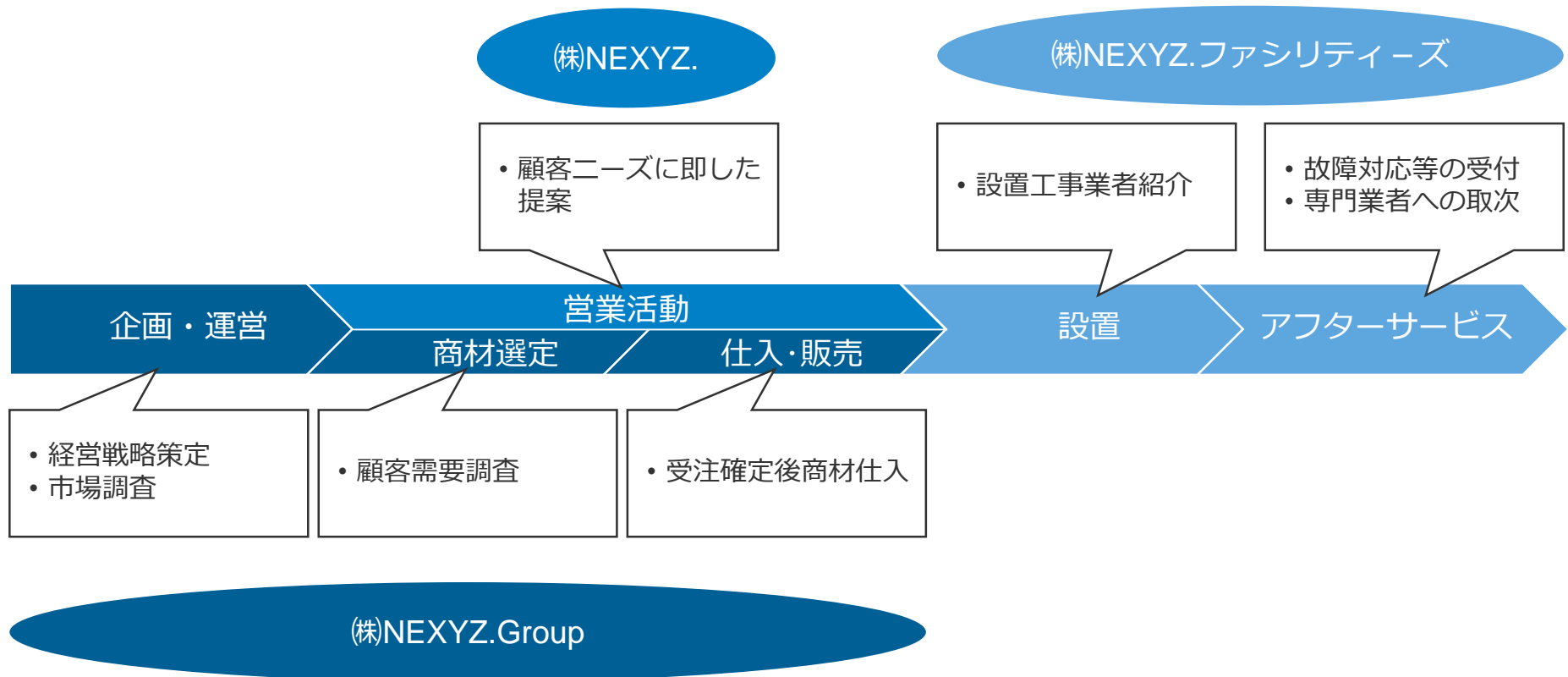
インパクトカテゴリー	PI	NI	PI	NI	
1	水	0	0	0	0
2	食糧	0	0	0	0
3	住居	0	0	0	0
4	健康・衛生	0	0	0	0
5	教育	0	0	0	0
6	雇用	0	0	1	1
7	エネルギー	2	0	0	0
8	移動手段	0	0	0	0
9	情報	0	0	1	0
10	文化・伝統	0	2	0	0
11	人権と人の安全保障	0	0	0	0
12	正義	0	0	0	0
13	強固な制度・平和・安定	0	0	0	0
14	水（陸）	0	0	0	1
15	大気	2	0	0	1
16	土壌	0	0	0	2
17	生物多様性と生態系サービス	0	1	0	0
18	資源効率・安全性	0	1	0	2
19	気候	2	0	0	1
20	廃棄物	0	0	0	1
21	包括的で健全な経済	0	0	1	0
22	経済成長	2	0	0	0

インパクト	目標（業）	KPI（業）	関連するSDGs
気候、資源効率・安全性	・ 〇年度のGHG排出量（〇年度比）	・ GHG排出量削減率（〇年度比）	
資源効率・安全性、廃棄物	・ 産業廃棄物の発生量 ・ 化学物質排出原単位	・ 〇年度 〇 t ・ 〇年度 〇Nri/年/t	

インパクト評価書
(当行HPにて公表)

- 当社グループの事業活動が付加価値を生み出す一連の流れ（バリューチェーン）について、当社グループの公表資料ならびに当社グループへのインタビューから作成しました
- 事業活動の川上、川下ともに不特定多数であるため、分析から除外しております

事業分野：エンベッドファイナンス事業



- ・ 特定した当社の事業分野について、国際標準産業分類（ISIC）における産業分類に紐づけました
- ・ その上で、UNEP FIのマッピングシートを用い、以下産業分類の一般的なインパクトを抽出しました

エンベデッドファイナンス事業 ⇒ ISIC : 7730 その他の機械器具・有形財賃貸・リース業

PI補足	PI	インパクトカテゴリー		NI	NI補足	(凡例)
		①	水	①		2 : 影響大
		②	食糧	②		1 : 影響あり
		③	住居	③		空 : 影響なし
		④	健康・衛生	④		
		⑤	教育	⑤		
生計の維持	1	⑥	雇用	⑥	1	労働条件
		⑦	エネルギー	⑦		
		⑧	移動手段	⑧		
		⑨	情報	⑨		
		⑩	文化・伝統	⑩		
		⑪	人格と人の安全保障	⑪		
		⑫	正義	⑫		
		⑬	強固な制度・平和・安定	⑬		
		⑭	水（質）	⑭		
		⑮	大気	⑮		
		⑯	土壌	⑯		
		⑰	生物多様性と生態系サービス	⑰		
レンタルとリースによる余分な主材料使用量の削減	1	⑱	資源効率・安全性	⑱		
		⑲	気候	⑲		
		⑳	廃棄物	⑳	1	オフィスで発生する廃棄物
経済活動に貢献	1	㉑	包摂的で健全な経済	㉑		
手ごろな価格による経済収束への寄与	1	㉒	経済収束	㉒		

- インパクトマッピングの22項目のカテゴリとSDGsは、以下のように対応しています

		SDGs																
インパクトカテゴリー		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
①	水						●											
②	食糧	●																
③	住居											●						
④	健康・衛生			●														
⑤	教育				●													
⑥	雇用								●									
⑦	エネルギー							●										
⑧	移動手段											●						
⑨	情報									●								
⑩	文化・伝統											●						
⑪	人格と人の安全保障										●							
⑫	正義																●	
⑬	強固な制度・平和・安定																●	
⑭	水（質）						●											
⑮	大気			●														
⑯	土壌																●	
⑰	生物多様性と生態系サービス														●	●		
⑱	資源効率・安全性							●					●					
⑲	気候													●				
⑳	廃棄物												●					
㉑	包摂的で健全な経済					●			●									
㉒	経済収束	●																●

出所：環境省「インパクトファイナンスの基本的考え方」より当行作成

- インパクトがあると判定されたカテゴリとSDGsを対応させた結果、下図のように整理されました

エンベデッドファイナンス事業（ISIC:7730 その他の機械器具・有形財賃貸・リース業）

ポジティブインパクト



• 手ごろな価格による経済収束への貢献



• 生計の維持



• 経済活動に貢献



• レンタルとリースによる余分な主材料使用量の削減

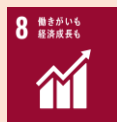


• レンタルとリースによる余分な主材料使用量の削減



• 手ごろな価格による経済収束への貢献

ネガティブインパクト






• 労働条件



• オフィスで発生する廃棄物

- インパクトマッピングにより特定されたインパクトについて、当社グループが定めるサステナビリティに関する考え方及び取組み等との整合性を踏まえ、目標・KPIを以下のように選択し、設定しました

インパクト	目標	KPI	関連するSDGs
資源効率・安全性 (PI)	ゼロカーボングリーンプロジェクト推進によるCO ₂ 排出量削減量（2012年からの累計） ・ 2025年9月までに200万t-CO ₂	ゼロカーボングリーンプロジェクト推進によるCO ₂ 排出量削減量（2012年からの累計）	 
雇用 (PI, NI)	育児休業制度の利用拡大*	未定	

(凡例) PI : ポジティブインパクトの拡大、NI : ネガティブインパクトの抑制

※当社は、第34期有価証券報告書の第2【事業の状況】2【サステナビリティに関する考え方及び取組】において、「人材の育成及び社内環境整備に関する具体的な指標及び目標は現在定めておりませんが、今後検討を進めてまいります」と公表しています。
本目標「育児休業制度の利用拡大」に係るKPI及び定量的な目標値が設定された後は、当該KPI及び目標値に基づいてモニタリングを実施します。



ご留意いただきたい事項

- 本評価書の内容は、あおぞら銀行がその裁量により信頼できると判断した現時点で入手可能な公表資料や借入人へのヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価し作成されたものですが、あおぞら銀行は、当該情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について表明または保証するものではなく、当該情報を使用した結果について一切の責任を負いません。
- あおぞら銀行は、法律、会計、税務等の専門的資格を求められる内容に関しアドバイスを行う立場にありません。これらの専門的内容等につきましては、独立したそれぞれの専門家にご相談願います。
- 本評価書に係る一切の権利はあおぞら銀行が保有しています。本評価書の全部または一部をあおぞら銀行に無断で複製、翻案、改変等することは禁止されています。